

国際広報メディア専攻

平成 21 年度
前 期

国際広報メディア専攻

日本語論述

13 : 30～15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて2枚ある。
- 3 解答用紙（25字×40行=1000字）は、2枚ある。
- 4 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～3 のうちから 1 題を選択し、1600～2000字の日本語
(横書き) で解答しなさい。

【問題 1】

最近、化石燃料の枯渇や地球温暖化問題に関する心配が世界中に広がっている。その一つの対策として食料作物を利用したバイオ燃料の使用が拡大されているが、それによって様々な社会的・経済的な利点または問題点が発生している。あなたが考える社会的・経済的な利点または問題点を具体的に取り上げながら、バイオ燃料の生産に対して賛成か反対かを論じなさい。

【問題 2】

2011 年 7 月にアナログ放送から地上デジタル放送 (地デジ) に完全移行されることになっているが、日本民間放送連盟が 2008 年 3 月に実施した調査によると、地デジ対応テレビの世帯普及率は 39・7%で、視聴に必要なUHFアンテナを設置しているなど視聴可能な状態にあるものは 32・7%にとどまっているということである。

このような現状を踏まえ、地デジへ移行されることになった必要性、移行に伴う諸問題、移行を順調に進めるために求められる具体的プランについて考えるところを述べなさい。

【問題 3】

ら抜き表現、接客業で使用されるマニュアルどおりの表現など、誤用であると見なされながらも広く使用されている表現があります。これらの表現について具体例を挙げて、なぜ誤用と見なされるのか、そしてそのような誤用がなぜ起きるのか、その構造や背景を記述しなさい。次に日本語学習者の誤用例を挙げて、同様にその構造や背景を記述しなさい。そして、両者の誤用を比較して、その性質の差について考えるところを述べなさい。